

## 最優秀賞（小学校高学年部門）

「チーム和歌山」出勤！

和歌山大学教育学部附属小学校 六年 林 勇夢

「和歌山に恩返しをしたい」

和歌山県で生まれ育った人達がそう思うことが、二〇四〇年の夢がもてる和歌山県を作る上で大切だと思います。皆さんが生まれ育った故郷に恩返ししませんか？

故郷という言葉が僕は大好きです。故郷は、自分の思い出がたくさん詰まった落ち着くことができる場所です。この故郷が、夢がもてる自分の居場所となれば、大人になったときに、自然と恩返しをしたいと思えるのではないのでしょうか。僕たちのように、和歌山で生まれ育った子どもたちが大人になったときに、夢や希望をもてず、和歌山を去るのは、とても悲しいことだと僕は思います。

僕はこの夏、和歌山の人口減少を止めるべく、和歌山の魅力を伝えるために、クラスの人々と、ぶんだら祭りに参加しました。紀州材を使った射的や、梅やみかんを使った香水を作り、出店しました。これらのことをするために、和歌山の企業や、県庁の方々が協力してくださいました。そのとき、いろいろな人の協力があると大きな力になるんだな、と思いました。

そこで提案したいのが、恩返ししたい人々で「チーム和歌山」を作るのはどうでしょう。チーム和歌山で協力して、和歌山を盛り上げていき、夢のあふれる和歌山県にしましょう。例えば、使っていない森林を借りて、紀州材を扱う会社がホテルを建て、農家さんに協力してもらって食事を提供する。有名人にホテルの魅力をアピールしてもらおう。そのように、チーム和歌山が一丸となって、和歌山を盛り上げることで、仕事や夢が増え、和歌山を去る人が少なくなると考えています。

チーム和歌山は、いままぐにでも作ることができます。僕も参加したいです。チーム和歌山の人数が増えていって、二〇四〇年には、夢あふれる和歌山になっていることが、僕の願いです。

さあ、チーム和歌山 出動！